KINGCA WEEK 2023　感想

神戸大学病院大学院医学研究科外科学講座　食道胃腸外科学分野　今井理揮

この度 2023 年韓国胃癌学会である KINGCA WEEK 2023 年に現地参加させていただきました。日程としては、2023 年 9 月 11 日～13 日までは Asan Medical Center において Master Class として施設見学を行い、14～16 日は自身の発表を含め KINGCA WEEK 2023 に参加させていただきました。

私自身としては初めての海外学会であり、かつ恥ずかしながら海外渡航経験もほとんどないことから色々と不安と緊張が入り交じる期間でありました。しかし、幸いにも同じ医局の先輩である横尾先生と日程を同じくすることができ、無事に KINGCA WEEK を終えることができました。

まずは Master Class で 3 日間見学させていただいた Asan Medical Center についての感想を述べさせていただきます。こちらの病院は日本とは規格外の大病院であり、病床数も 1000 床を超える多さでした。病院も、メイン病棟は 3 棟から成り、手術室にいたっては 3 病棟の 3 階をすべて連続させたワンフロアとなり総数は 70 室以上とのことでした。胃外科の見学では自分と同じ医局の横尾先生以外に、シンガポールからの医師も一緒に見学させていただきました。

手術見学については基本的には気になる手術を適宜選んで、直接手術室に向かって見学することができました。そこでまず一つ驚くことが一日の手術スケジュールの過密さでした。手術は基本的に 3 列並列で行われており、それぞれ胃癌手術が縦で 3 件で並ぶことも珍しくないことであり、短い自分の外科経験の中、日本では見たことのないスケジュールでした。

それが可能である理由としては、手術の正確性に基づいた早さであると感じました。LDG および場合によっては TG でも 2～3 時間程度で終了していたましたが、決して早さを追求することでの粗雑さは一切なく、正確で無駄な手順がないこと故の早さにつながっていました。その具体的な理由として各オペレーターによって細かい違いはあるものの、手術の定型化およびその手順の共有が事細かくなされているようにも感じました。とういうのも、助手や器械出しも言われなくても手順がわかっており、「ここ持って」や「次、クリップ」といったコミュニケーションがほとんどなく必要最低限な会話でスムーズに行われていました。手術が妨げられる様な些細なエラーすらほとんどなく淀みなく手術が行われた結果としてスムーズな手術からのこなせるスケジュールであると考えました。

また日本と大きく異なる他の点としては、手術助手専門のナースがいることです。このナースは普通のナースと異なり、カメラ持ちだけでなく前立ちや閉創を行うことができます。一部の業務を分担していることで、医師の負担を減らしスケジュールをこなすことができている印象でありました。また今回見学させていただいた手術助手のナースにいたっては、

胃切のみの手術を専門に 15 年以上携わっているとのことでした。その経験豊かさを垣間見ることもでき、その具体的な例として偶々Asan Medical Canter に胃切除を勉強にきた若手医師が手術を行う場面に出会いましたが、そのナースが適宜アドバイスを行っていることも非常に印象的でありました。

また次に INGCA WEEK 2023 についてですが、口頭発表は初めての海外発表であることから非常に緊張しながらの発表となりました。また韓国に訪れた時から感じていたことですが、韓国の医師との圧倒的な英語力の差を感じました。したがって発表での質疑応答でも他の医師たちの発表と比較すると、しどろもどろで受け答えする形となってしまいました。今後の医師人生において、自身の英語力向上の必要性も強く実感することとなりました。

最後になりますが、今回このような貴重な経験を得る機会をいただきました、日本胃癌学会理事長掛地教授、日本胃癌学会事務局の方々、KINGCA WEEK 2023 関係者の方々に深く感謝申し上げます。

以下、Master Class および KINGCA WEEK 2023 での活動の写真

3 日間案内いただいた Dr. Juno（左手前）と、同じ Master Class で見学した Dr. Chee（左奥）、医局の先輩である横尾先生（右手前）と共に Asan Medical Center でのランチの様子

Prof. Kim（左から 3 番目）および胃外科スタッフ、手術場スタッフの方々との記念撮影

掛地吉弘教授（中央）と横尾先生（右）との記念撮影